

「岡山豪雨災害支援ボランティア活動報告書」

2018年8月26日～30日

■「西日本豪雨災害支援ボランティア」

6月下旬から7月上旬に西日本を襲った豪雨によって、各地で土砂崩れや河川の氾濫が相次ぎ、大きな被害が出ました。

これを受けて、TCUから4名の学生（遠田ゆりな、外山実祈、齊藤エステル、泉ユリエ）を、

8月26日～8月30日の間、岡山にボランティアを派遣しました。

皆様には、多くの祈りと献金によるサポートを賜り感謝します。今回は、ボランティアから無事に帰ってきた報告と、ボランティアの活動の報告をさせていただきます。

〈活動報告〉

8月26日（日）にTCU（千葉）を出発し、車で片道約11時間かけて、岡山に到着しました。

8月27日（月）は、TCUの卒業生である笹沖聖約キリスト教会の大村智康牧師の案内のもと、被災地の視察をしました。被害の大きかった真備町に入ると、ほとんどの家に人が住んでおらず、土砂崩れの起きた山にビニールシートがかかっていたり、川の氾濫後に水が引いたことによって地面に多くの土砂が残っていたり、多くのお店が閉店しているなどと様々な豪雨による被害をみました。

8月28日（火）、29日（水）は岡山キリスト災害支援室を通して、2つのチームに分かれてボランティアをしました。一つのチームは岡山県真備町の公民館や児童館の復旧作業ボランティアをしました。もう一つのチームは岡山キリスト災害支援室のベースの事務作業を学びつつ、ボランティアをしました。また、29日の夜には岡山キリスト災害支援室の祈禱会があり、JIFHの方などの報告、祈りの時間をもつことができました。

8月30日（木）の朝9時に岡山を出発し、夜22時頃TCUに無事に到着しました。5日間のスケジュールが守られたこと、往復の運転が守られたこと、ボランティアに参加した学生それぞれが多くの恵みと祈りの課題を受けることができたこと、が何よりの感謝でした。

〈感想〉

岡山ボランティアに参加した学生の感想です。

私は、岡山県の倉敷市真備町に派遣され、児童館でのボランティアに参加しました。

その児童館に行って目にしたのは、壁や天井が無くなり、風通しの良くなっている室内と、高いところに置き去りにされているきつと子供達が遊んでいたろう車のおもちゃでした。その高さというのは、二階建ての建物の床よりもはるかに上で、川の水がどれだけ流れ込んできたかを物語っていました。その状態を見て、私は悲しいような切ないような感情になりました。

しかし、児童館の骨組は鉄筋で出来ていて、リフォームが可能であるということを知りました。実際、私たちは壁と天井をおさえていたビスを鉄筋から外すという活動をさせていただきましたが、この小さな一つ一つの作業が、真備町の復興に少しでも貢献出来ていること、そしてこの活動をしているうちに、「早くここで遊ぶ子供達を見たい」という前向きで、ワクワクするような思いに変わりました。

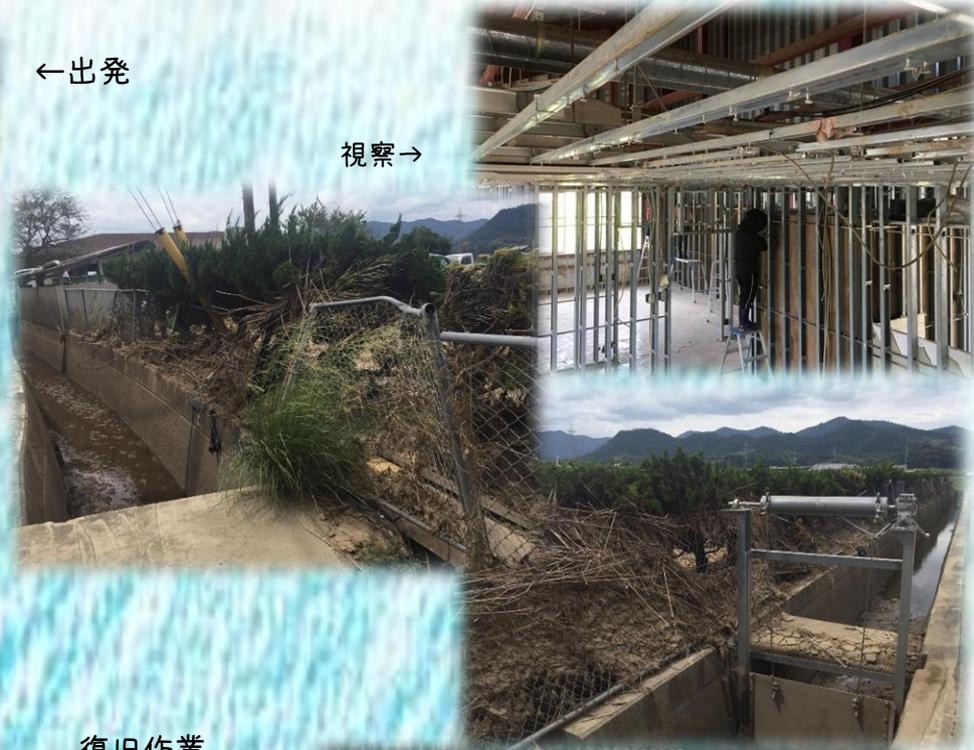
実際に現地に入り、ニュースで見えていたものよりもっと直接見たものにショックを受けましたが、現地に行かなければ感じるこのできないこともまだまだ沢山あると思います。私は是非みなさんにそれを感じてもらいたいです。

そして岡山県だけではなく、被災された地域のために一緒に祈りましょう！（泉 ユリエ）



←出発

視察→



復旧作業



↓到着

↑祈禱会



、無事に帰ってきました！
お祈りありがとうございました



続けて被災地を覚えてお祈りください。